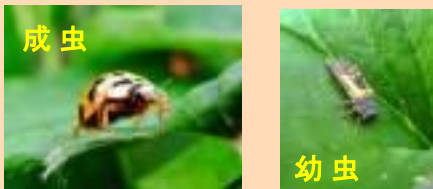


飛ばないナミテントウによるイチゴのアブラムシ対策

【背景・目的・成果】

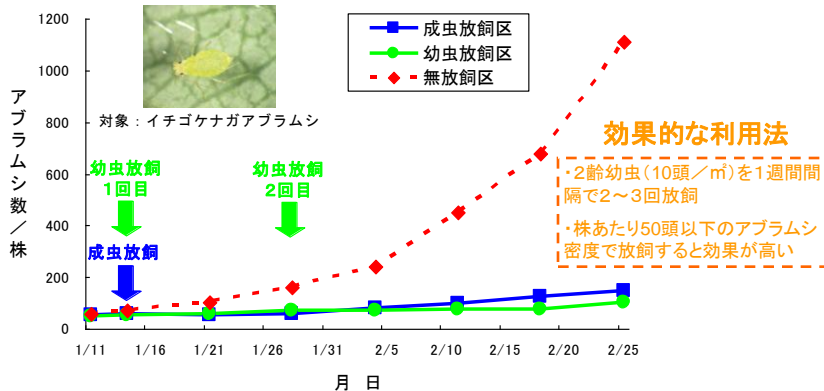
- ・ナミテントウはアブラムシ類の有力な天敵であるが、活発に飛翔するため、ほ場に定着しにくいという欠点があった。「飛ばないナミテントウ」※は定着性がよいので天敵として利用しやすく、化学合成農薬の使用を減らし、「人と環境にやさしい農業」を推進することができる。
- ・兵庫県では飛ばないナミテントウを利用した施設栽培イチゴにおけるアブラムシ類防除法の開発に取り組み、効果的な利用法を明らかにし、天敵によるアブラムシ防除体系を確立した。

飛ばないナミテントウの特徴



- ・飛翔能力の低い個体間の交配を繰り返すことにより、飛ばなくなったナミテントウ系統
- ・外見上は普通のナミテントウと同じ
- ・成虫、幼虫ともアブラムシをよく食べる
- ・飛翔しないため、ほ場に定着しやすい

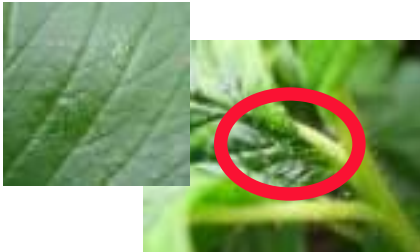
アブラムシ抑制能力



施設栽培イチゴほ場に放飼した飛ばないナミテントウのアブラムシ防除

使い方のコツ

- ✓ 脱皮殻や甘露でアブラムシの発生を、薬剤散布後濡れたマルチと飛ばないナミテントウの翅がくっついて起きあがれなくなることがあるので、敷きワラ等を設置して補助をつくる



イチゴ葉上の甘露(左上)と脱皮殻(右下)



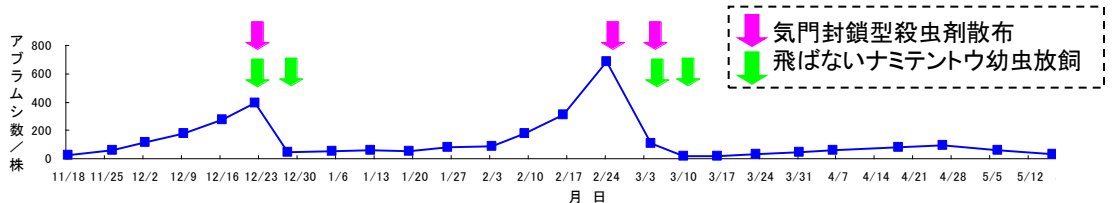
株間に敷きワラを設置することで物理的影響は軽減できます

薬剤散布によりマルチ上で行動不能となった成虫

- ✓ 薬剤を使うときは飛ばないナミテントウに影響のない剤を選ぶ → 気門封鎖型殺虫剤やよく使われる殺菌剤は影響がないことを確認済

- ✓ もしアブラムシが多発してしまった場合は、気門封鎖型殺虫剤との体系防除で対応できる

飛ばないナミテントウによるアブラムシ防除体系の実証



飛ばないナミテントウ幼虫放飼を基幹とした施設栽培イチゴのアブラムシ防除効果

【技術の活用】

- ・「施設栽培野菜」の「アブラムシ類」を対象に農薬登録される見込みです。登録後は、施設栽培イチゴの他に、登録薬剤の少ないマイナー作物などでの利活用に期待できる。
- ・化学合成殺虫剤に抵抗性を獲得したアブラムシにも効果があり、化学合成殺虫剤に替わる防除手段として本県における安全・安心な農産物を生産するため、飛ばないナミテントウの利用を推進する。